

## 南多摩病院での心臓リハビリテーションチームの立ち上げ

### ～多職種協働による取り組み～

南多摩病院 リハビリテーション科 ○山村 悠二、倉田 考徳、山田 健嗣  
看護部 樋口 隼介  
栄養科 今吉 慶  
循環器科 杉安 愛子、中嶋 直久、関 裕

#### 1. はじめに

IPW とは inter professional work (多職種協働) を意味し、千葉大学教授で他職種連携に関する研究を行っている吉本は「複数の領域の専門職者が各々の技術と役割をもとに、共通の目標を目指す協働」と定義している。特に急性期管理が必要である重篤な患者においては、呼吸及び循環動態が不安定であることから、予後判定が難しく専門性の高い他職種が連携してアプローチを行う必要があるとされている。また、2005年のAHA (American Heart Association) では心臓リハビリテーションの定義を「心疾患患者の身体的・心理的・社会的機能を最適化し、基礎にある動脈硬化の進行を安定・遅延・退縮させ、それにより罹病率と死亡率を低下させることを目指す他動的多面的介入である」として IPW の重要性を説明している。

#### 2. 当院での取り組み

当院では、2012年6月に新病棟創設と循環器科新設に伴い、心臓リハビリテーション(心リハ)を開始した。また、同時に理学療法士と看護師で心リハチームを構成し、虚血性心疾患のクリティカルパスを作成した。しかし、心リハ対象者は、心不全、急性心筋梗塞、狭心症、弁膜症、大動脈解離など多岐にわたり、循環器疾患の背景には、高血圧症・脂質異常症・糖尿病などの生活習慣病や、喫煙や運動不足などの生活習慣が潜んでおり、長期的な疾病管理を行う上では理学療法士と看護師での活動では不十分であった。

そこで、理学療法士と看護師のみで構成された心リハチームに2014年9月から循環器医師と管理栄養士が加わり、カンファレンスを隔週に1度行うことで、多職種協働による心リハを進めていく体制となった。定期的な心リハカンファレンスでは、患者一人ひとりの病態や疾病管理に必要な教育・指導内容を共有した。そして、医師による治療と並行して、理学療法士が身体機能やADL機能改善に向けた運動処方・指導、看護師が禁煙や服薬管理などの生活指導、管理栄養士が食事指導を行い、患者教育と指導を行った。

これらの取り組みにより、対象患者の課題が以前より明確に共有できるようになり、適切な場面で適切な介入が行えるようになりつつある。また、退院後の外来リハビリへの移行もスムーズとなり、退院後のフォローアップも行えるようになってきている。

#### 3. 今後の課題

課題としては、多職種協働による介入効果の客観的判断が困難であることや、互いの職種の介入内容・目的および進捗状況の理解不足が挙げられる。これらの課題に対して、客観的指標を用いた効果判定に取り組んでいるが、未だ多くのスタッフに周知されていない現状がある。そのため、心リハチーム主催で心リハ評価の方法や効果判定などに関する勉強会を実施し、お互いの立場の知識・技術を共有し、共通言語を増やすことで相互理解を深めることが必要である。